

レクチャー・コンサート
国際シンポジウム

日本とアメリカ、 歌の架け橋

スティーブン・フォスター歌曲の
受容と展開

2013年
12月7日 13:00 – 17:00 (開場12:30)

立命館大学衣笠キャンパス
創思館 カンファレンスルーム

参加費・事前申込不要

通訳なし・翻訳資料あり

13:00–15:20 第1部 レクチャー・コンサート

基調講演：Dr. Deane L. Root (ディーン・L・ルート/ピッツバーグ大学教授)

“Foster Songs as American Vernacular” 「スティーブン・フォスターとアメリカ」

コンサート：Joe Weed & Martha E. Kendall

(ジョー・ウィード/音楽プロデューサー&マーサ・E・ケンダル/カリフォルニア州サン・ホセ大学名誉教授)

司会：宮下和子 (鹿屋体育大学名誉教授)

15:30–17:00 第2部 国際シンポジウム

パネリスト：Dr. Sondra Wieland Howe (ソンドラ・ウィーランド・ハウ/比較音楽研究者)

“American Music in Meiji Era in Japan” 「明治時代のアメリカ音楽受容とフォスター」

宮下和子

「スティーブン・フォスター再発見」 「Rediscovering Stephen Foster」

Dr. Deane L. Root (ディーン・L・ルート)

“Predicting the Future of Foster Songs” 「フォスター歌曲の展望」

フォスター楽曲ワークショップ：Joe Weed & Martha E. Kendall (ジョー・ウィード&マーサ・E・ケンダル)

司会：ウェルズ恵子 (立命館大学教授)

日本とアメリカ、歌の架け橋

スティーブン・フォスター歌曲の受容と展開

企画趣旨

「ケンタッキーの我が家」や「夢路より」などの歌で知られるスティーブン・フォスターの歌曲は、ジョン万次郎や黒船とともに日本に上陸しました。そして今日まで愛され続けています。日本の音楽教育ではいつからどのように扱われてきたのでしょうか。フォスター歌曲はアメリカでどのように愛唱されてきたのでしょうか。デジタル音楽技術の発達した未来には、どんな展開をするのでしょうか。フォスターの歌が結んだ日本とアメリカ。多文化・多言語社会の未来に、歌の果たす役割を考えます。ライブ・コンサートもあわせてお楽しみください。



ディーン・L・ルート (Dr. Deane L. Root)

ピッツバーグ大学音楽学部教授、「アメリカ音楽センター」所長及びフォスター記念館館長を兼任。オックスフォード大学出版電子書籍『グローブ・ミュージック』の編集責任者。代表的な著書に『フォスターの音楽～評論』（1990）や『時空を超えて～音楽を通したアメリカ史』（2004）がある。2013年イリノイ大学出版の『アメリカン・ミュージック～スティーブン・フォスター特集』は共同編集と序文執筆を担当。アメリカ音楽学会会長歴任、2001年PBS放送の『アメリカの経験～スティーブン・フォスター』制作協力。2004年開始の夏期教員講座「時空を超えて～音楽を通したアメリカ史」及び2010年4月の「スティーブン・フォスター シンポジウム」を開催。1992年アメリカ図書協会選から「優秀音楽研究書賞」を受賞。

ジョー・ウィード (Joe Weed)

カリフォルニア州サンタクルーズに有する「ハイランド・スタジオ」で音楽や映像制作活動を行い、自身のアルバムもリリースしている。2000年に発表したSwanee～The Music of Stephen Fosterは、フォスター歌16曲各々に関するリサーチに基づく解説が秀逸。フリーのアーティストやレコード会社に多数の企画製作をし、映画やテレビ、博物館などのサウンド・トラック製作も手掛けている。ルート氏との共同編集による最新書『アメリカン・ミュージック～スティーブン・フォスター特集』には、論文「Foster's Songs in Old-Time String Band and Bluegrass Music」を執筆。

ソンドラ・ウィーランド・ハウ (Dr. Sondra Wieland Howe)

比較音楽研究者。代表論文「ルーサー・ホワイティング・メイソン～19世紀日米における音楽教育への貢献」（原文英語）。ミネソタ大学やマカレスター大学などで音楽理論やピアノ指導など教鞭をとり、退職後は音楽教育及び女性と音楽に関する研究を継続中。特に、明治初期の日本への西洋音楽の移入について造詣が深い。台湾における伊澤修二の教育活動に関し、台湾の研究者との共同執筆がある。

マーサ・エディス・ケンドール (Martha Edith Kendall)

声楽家及び楽器演奏者。カリフォルニア州サン・ホセ大学言語芸術学部名誉教授。夫君のジョー・ウィード氏のバンドでは、ヴォーカリスト及び弦楽器演奏者として参加。作家としても活躍中。詳細は<http://www.jacketflap.com/martha-e-kendall/105538>。

宮下和子

鹿屋体育大学名誉教授・立命館大学国際言語文化研究所客員研究員。元放送大学客員教授。英語や異文化理解教育、日米の異文化交流研究に取り組む。フォスター歌曲を米国史の文脈で研究。「スティーブン・フォスター シンポジウム」（ピッツバーグ大学）では、講演「America as Understood through Foster's Songs in Foreign Cultures～Foster's Music as Japanese Cultural Heritage」を行った。『アメリカン・ミュージック～スティーブン・フォスター特集』には「Foster's Songs in Japan」を寄稿している。

アクセス

立命館大学 衣笠キャンパス

- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・205
- JR 円町駅より 市バス15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス55
- 地下鉄 西大路御池駅より 市バス205
- 京阪電車 三条駅より 市バス15・59

- 市バス15・50・55・59にて「立命館大学前」下車/徒歩5分
- 市バス204・205にて「衣笠校前」下車/徒歩10分 西門



お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所

TEL: 075-465-8164 E-mail: genbun@st.ritsumei.ac.jp
URL: www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm